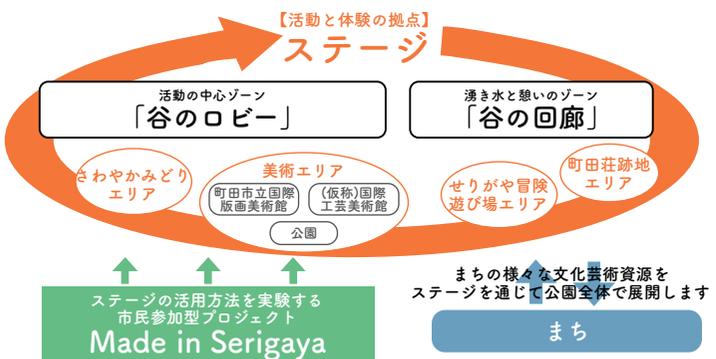


1 全体計画(コンセプト)について ~公園と美術館の一体的整備~

芹ヶ谷公園"芸術の杜"コンセプト

町田の自然と文化に出会える パークミュージアム

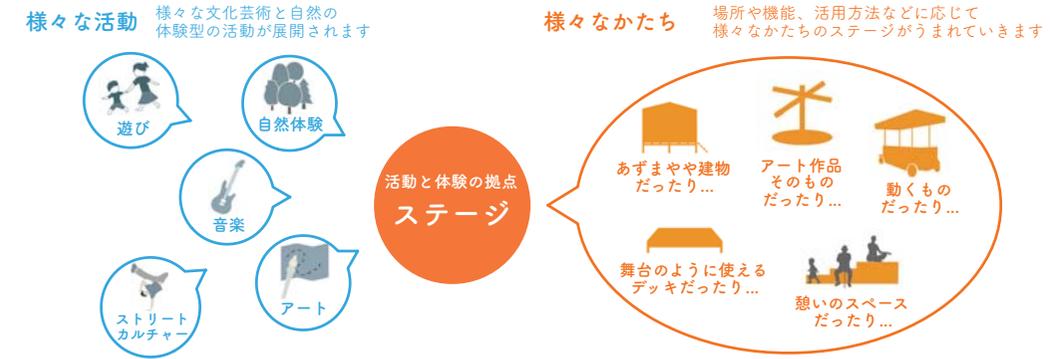
芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館を一体的に整備するに当たり、「芸術の杜」のコンセプトを「パークミュージアム」と名付けました。公園の価値と資源を活かし、まちなかの賑わいと連携させていくことで、町田らしい多彩なアート・カルチャーを体現する場となることを目指しています。パークミュージアムは通常の博物館や美術館のように展示されているものを鑑賞するだけでなく、町田の多様な文化芸術の活動や公園の豊かな自然を体験しながら学び楽しむことができる新しい体験型の公園です。



※Made in Serigayaについては裏面を御覧ください。

活動と体験の拠点「ステージ」について

ステージとは、パークミュージアムにおける文化芸術や自然の体験型プログラムの拠点となる場所です。公園内の様々な場所に配置されるステージはそれぞれの空間にあわせた特徴や機能を持っており、ステージで展開される活動は多様です。アーティストなどによる芸術活動はもちろん、遊びや憩い、スポーツや交流などもパークミュージアムにおける大切な文化的活動であり、公園に関わる誰もが主体的に関わることができます。



芹ヶ谷公園"芸術の杜"公園整備の全体像

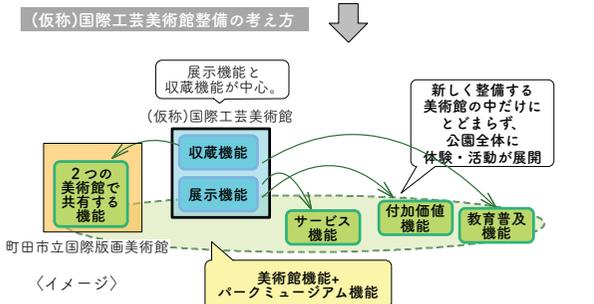
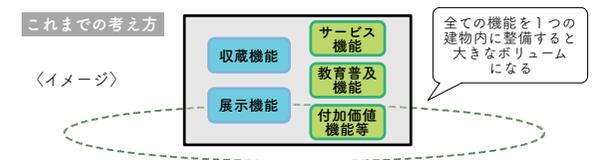
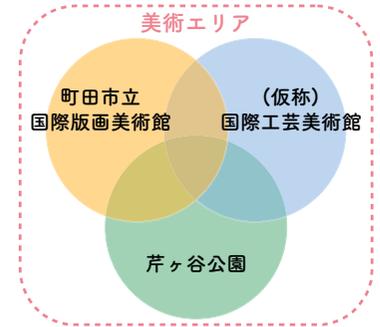


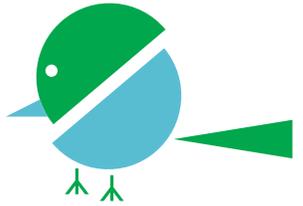
※2020年3月作成 パークミュージアム CONCEPT BOOKより

(仮称)国際工芸美術館整備の考え方について

新しく整備する(仮称)国際工芸美術館は、
町田市立国際版画美術館と共に公園と連続した
「美術エリア」を形成し、パークミュージアムへ
美術活動を展開するための拠点となります。

サービス機能や教育普及機能は公園の中に再配置し、
パークミュージアムの体験と活動のステージとなります。





Made in Serigaya
メイドイン葎ヶ谷

これまでの活動紹介

2019 8/24 スタートアップミーティング

葎ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトの検討をはじめにあって、プロジェクトの趣旨や目指すべき方向性について、そしてこれからの進め方などを市民の皆様へ説明する会として、スタートアップミーティングを開催しました。

2019 9/29 町田を面白がる会 葎ヶ谷公園の未来を考える編

課題解決型アイデア出しイベント「面白がる会」を開催しました。第1回は葎ヶ谷公園の現状の課題をディスカッションしました。

2019 10/10 公園の未来を面白がる会

10月には番外編として、町田市民ではない人々にも知恵を借りようと場所を変えて東京の茅場町にて面白がる会を開催しました。

パークミュージアムの実現にむけて、様々な“公園で〇〇したい”という声を集め、実際に実験的な取り組みをおこなっていく市民参加型プラットフォームが「Made in Serigaya (メイドイン葎ヶ谷)」です。

ここから生まれたアイデアやプロジェクトは、実際にパークミュージアムの取り組みのなかに引き継がれていくことを目指します。葎ヶ谷公園から市民が主体となって町田の文化や自然の魅力を発信し、さらに葎ヶ谷公園から新しい文化を生み出していこうという思いから「Made in Serigaya」と名付けました。

made.in.serigaya@gmail.com

↑ Made in Serigayaの取り組みに関するお問い合わせ先はこちらから→



町田市ホームページはこちらから↓



Made in Serigayaの活動やパークミュージアム CONCEPT BOOKは町田市ホームページからもご確認くださいませ。

2020 11/4 町田を面白がる会 葎ヶ谷公園の新たな使い方を考える編

第1回で抽出した課題と番外編のアイデアをヒントにしながら葎ヶ谷公園の新たな使い方をみんなで考えていきました。



2020 1/26 パークミュージアムラボ#0

誰にでもひらかれたかたちでコンセプトの共有や発信と葎ヶ谷公園の活用実験を行っていく取り組みである「パークミュージアムラボ」のプレイベントとして、公園で焚き火をして集ってみる実験と、桜美林大学と連携した光を使ったインスタレーションを実施しました。



2020 2/22 パークミュージアムラボ#1 "〇〇したい"を叶える公園の使い方

記念すべきパークミュージアムラボの第1回は、「プレイスメイキング」著者の園田聡さんをゲストにお迎えして開催しました。



まだ見たことのない光・幻想公園



2020 4/28 パークミュージアムラボ特別編 うちで考えるこれからの公園

集まらなくても公園の未来を考えるオンラインイベントを、南池袋公園の運営に携わる青木純さんをゲストに開催しました。



2020 6/19 パークミュージアムラボ#2 親子にとっての公園のある豊かな暮らしとは？

オンラインでのパークミュージアムラボの第2弾として、親子にとっての公園のある豊かな暮らしをテーマに座談会を開催しました。



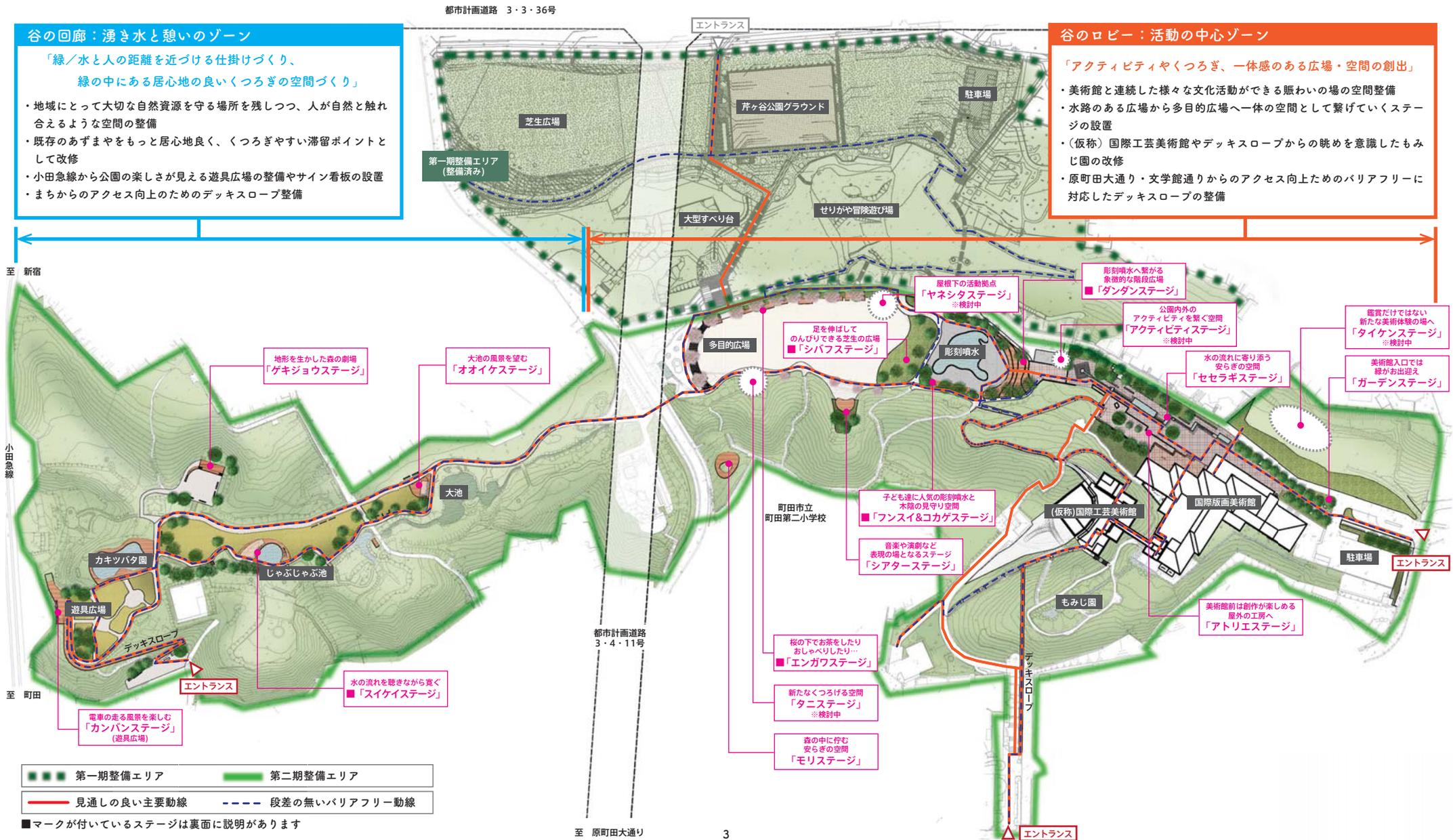
スケジュール(予定)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
【Made in Serigayaの取り組み】					
【フェーズ1】 アイデアを集める	【フェーズ2】 仕組みを考える/仲間を集める	【フェーズ3】 試しに色々やってみる(実証実験)	【フェーズ4】 活動を育てていく/拡げていく		【フェーズ5】 実装/続けていく
●実証実験スタート					
葎ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト パークミュージアム CONCEPT BOOK		葎ヶ谷公園“芸術の杜”マスタープラン			
【葎ヶ谷公園第二期整備】					
リサーチ	基本設計	実施設計	工事期間	2024年度 葎ヶ谷公園第二期整備 オープン	
【(仮称)国際工芸美術館新築工事】					
基本設計要件整理	基本設計	実施設計	工事期間	2024年度 (仮称)国際工芸美術館 オープン	
【国際版画美術館改修工事】					
	基本設計	実施設計	工事期間	2024年度国際版画美術館 リニューアルオープン	
【体験工房】					
	基本計画	設計・工事	工事期間	2024年度 体験工房オープン	

2 公園整備について

「芹ヶ谷らしさ」を引き出す、水と緑に溶け込み、新たなアクティビティが生まれる居心地の良い空間デザイン

芹ヶ谷公園の魅力である既存の谷戸地形や湧水がつくる自然風景を活かし、誰もが歩いて楽しい歩行空間の創出、谷のロビーと回廊の連続性を意識した公園づくりを行います。利用する人々の新しいアクティビティやコミュニティの生まれる拠点として「ステージ」を配置することで、様々な人たちにとって居心地の良い公園になることを目指します。



公園の使い方のイメージ

2019年度から実施してきた「面白がる会」や「パークミュージアムラボ」で出た意見や活動結果をもとに、日常的な過ごし方から特別な体験まで公園の使い方の幅が広がる仕掛けを、ステージをはじめとした整備項目として取り入れました。



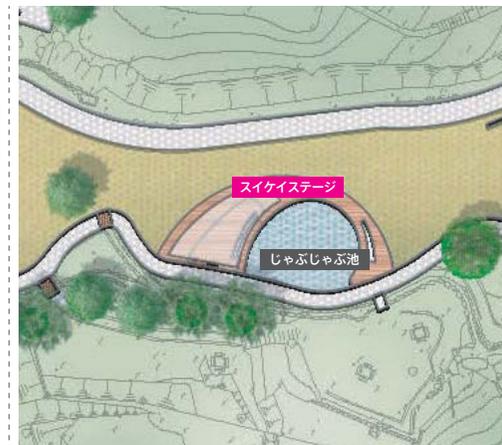
■シバフステージ ■ファンスイ&コカゲステージ ■ダンダンスステージ

広がった段々状のデッキや木陰のあるベンチ、多目的広場と繋がる芝生の広場を整備した、ランチやヨガなど思い思いの時間を楽しめる場所。



■エンガワステージ

サクラ並木の下にボックス型のデッキを整備した、休憩やイベント、パフォーマンスなど多様なアクティビティの拠点として活用できる場所。



■スイケイステージ

池の周りにデッキを整備した、せせらぎの音を感じながら芹ヶ谷の自然を満喫できる場所。



緑と水とのかかわり方について

1 植生の多様化に向けて緑の更新を行います。

健全な樹林の環境をつくるために若い樹木の成長を促進させ、遷移の進む里山の樹林環境を更新していきます。

2 多様な動植物や湧き水などの自然資源を保護しながらも、触れ合える場とします。

芹ヶ谷公園に生息する動物や植物、大池周辺やもみじ園に流れる湧水はこの公園を特徴づける大切な資源です。大切に保護しながら多様性のある風景づくりを行うと共に、身近にふれあえる場所の確保など、魅力を発信できる工夫もしていきます。



みんなが利用しやすい公園づくりについて

1 誰でも公園を楽しめる、バリアフリー対応の園路を整備します。

バリアフリー対応の園路やスロープを整備し、各エントランスから園内に点在するステージまで、誰でも行き来ができ楽しめる動線計画を行います。

2 統一感のある、明るく明確なサインの設置と情報発信の場の整備を行います。

統一感のある、明るく明確なサインの設置と情報発信の場の整備を行います。公園サインを全体的に見直し、園内だけでなくまちから来た人にとっても分かりやすい統一感のあるサイン計画を行います。また、公園を安全に楽しく利用するために、美術館や公園で行われているイベントや活動の情報を効果的にお知らせする案内板など情報発信の場も整備します。

3 安心して歩ける空間づくりを目指した整備を行います。

誰もが安心して歩けるように、緑を大切にしつつ明るい開けた空間整備を行います。

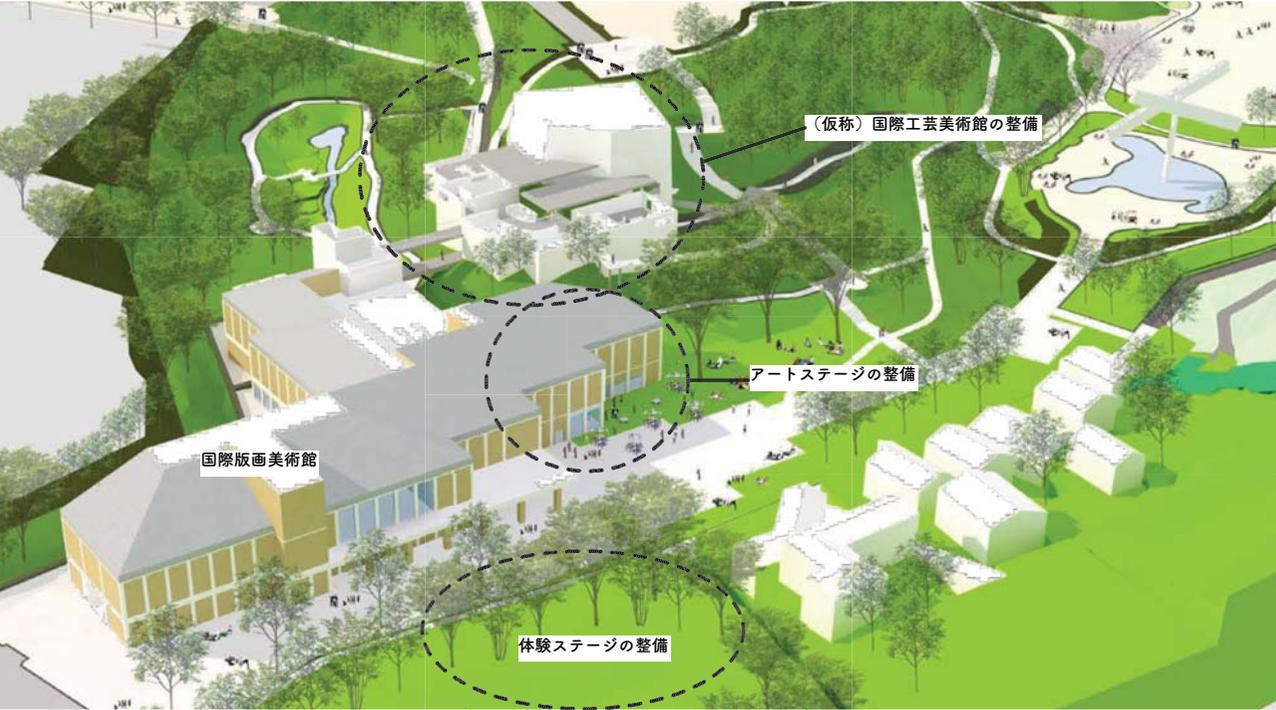


※写真はイメージです

3 美術館整備について

美術エリアの整備全体像について

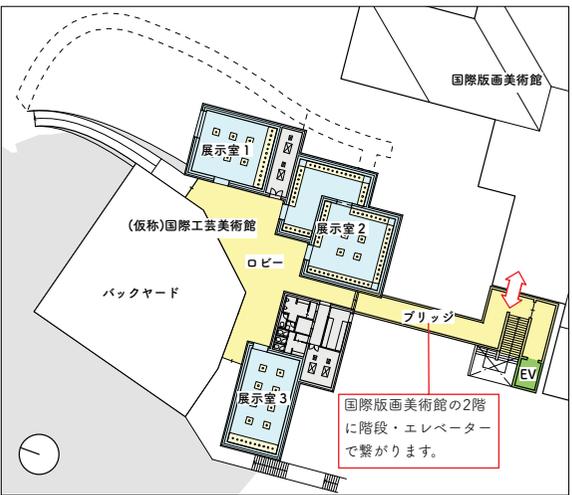
新しく整備する(仮称)国際工芸美術館は、町田市立国際版画美術館と共に公園と連続した「美術エリア」を形成し、公園全体へ多様な文化芸術活動が広がっていきます。芹ヶ谷公園との一体的な整備にあたり、(仮称)国際工芸美術館の整備においても、町田らしい多様なアート・カルチャーを体現する魅力的な企画やイベントが、美術館に留まらず、緑あふれる公園の空間やまちなかと一体となって展開されている「パークミュージアム」ならでの、みんなに親しまれ愛され続ける美術館を目指します。



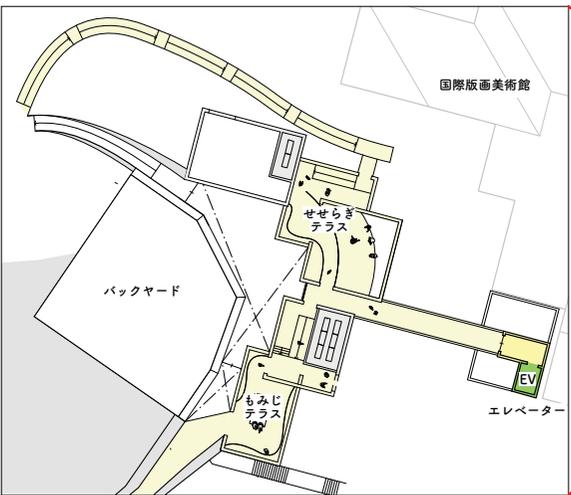
(仮称)国際工芸美術館の整備について

国際版画美術館の北側に、新たに(仮称)国際工芸美術館を整備します。(仮称)国際工芸美術館は、町田市立博物館から、特に評価の高いガラスと陶磁器の作品を引き継ぐ美術館です。入口は、国際版画美術館と共通です。現在の国際版画美術館正面エントランス、または新たに整備するアートステージから入館します。

- 1階：展示フロア・ロビー (+バックヤード)**
町田市が世界に誇る工芸美術作品をご覧ください。国際版画美術館の2階からブリッジで接続され、国際版画美術館の展示と合わせてお楽しみいただけます。
- 2階：屋上テラス (+バックヤード)**
展示フロアの屋上は、公園の園路と繋がった開放的なテラス空間になります。
- 3階：車両搬入口等** ※平面図省略
バックヤード機能のみ



1階平面図：展示フロア・ロビー (+バックヤード)



2階平面図：屋上テラス (+バックヤード)



美術エリア全体配置図

アートステージ・体験ステージの整備について

国際版画美術館の1階の一部を改修し、「アートステージ」を整備します。今回の新たな美術館整備においては、「もの」の鑑賞を軸においた展示フロアに加えて「こと」のための空間・場として「アートステージ」を新設し、子どもを含めたあらゆる人たちに参加・体験を提供します。



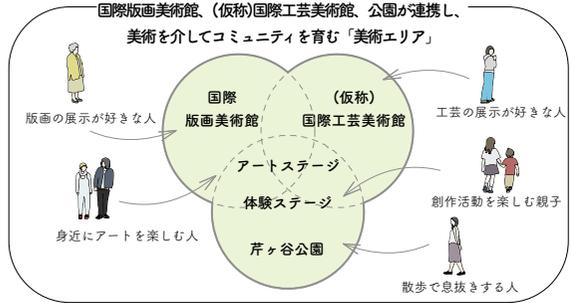
活動のイメージ



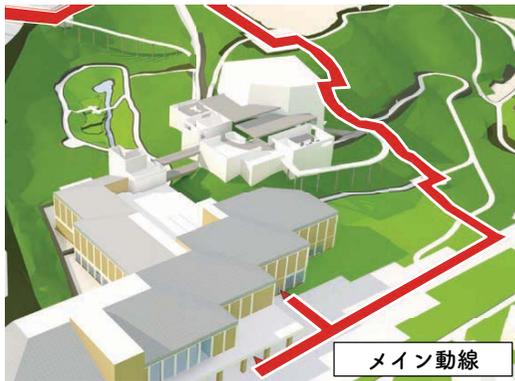
活動のイメージ

アートステージの空間は、創造的なコミュニティの居場所となるサードプレイスとしての役割や、アートセンターとしての役割などを担います。子どもでも気軽に体験できるアートプログラムの提供や、多様な表現を行うフィールドとして、より多くの方に身近にアートに触れていただける新しい美術館への入口になります。

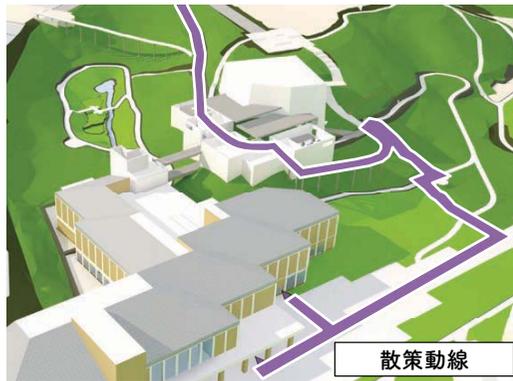
現在未利用となっている国際版画美術館の対面のエリアを活用し、創作活動・体験が楽しめる「体験ステージ」の整備を検討しています。



動線について(美術館エントランスへの様々な動線パターン)



メイン動線



散策動線

○(仮称)国際工芸美術館の入口は、国際版画美術館と共通です。これまでと同じように、既存の園路をご利用いただけます。

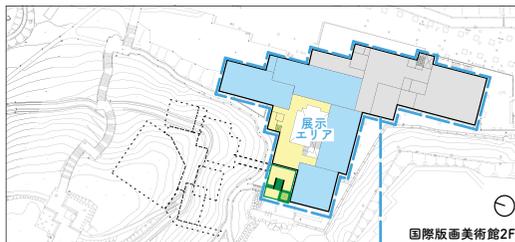
○(仮称)国際工芸美術館の2階部分のテラスを通り、自然豊かな公園の散策をお楽しみいただくこともできます。

○車いすやベビーカーなど、階段の利用が難しい方も移動しやすいように、エレベーターを設置します。(仮称)国際工芸美術館の2階部分からエレベーターで国際版画美術館の1階部分に降りることができます。



バリアフリー動線

美術館一体整備後の鑑賞動線について

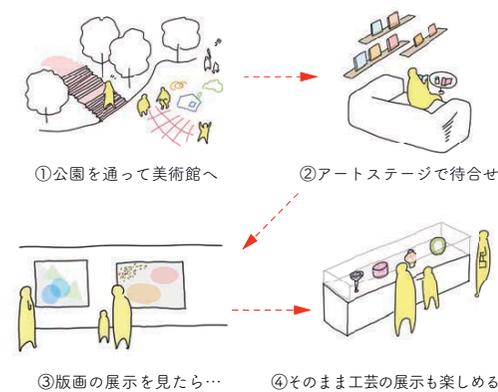


国際版画美術館2F



(仮称)国際工芸美術館

新たに整備する(仮称)国際工芸美術館は、国際版画美術館とブリッジにより繋がっています。個性ある両館の展示を一体的に楽しんでいただくことができます。



現在の国際版画美術館のメインエントランス、または、アートステージからお入りいただき、2階の国際版画美術館、その先の(仮称)国際工芸美術館と両方の展示エリアにシームレスに移動できます。

町田市工芸美術コレクション

▶陶磁器の作品紹介

陶磁器は土で形を作った後、それを焼いて作られていることから「焼きもの」とも呼ばれます。ここでは東南アジアと中国で作られた陶磁器の中からイチオシの作品を紹介します。



まんまるな体が可愛いウサギ

聖水を注ぐエキゾチックな祈りの器

自由奔放な動物表現が見どころ

黒褐釉・灰釉瓦形香
古代カンボジア王国 12-13世紀
特有の造形で人気の高い瓦形香の優品です。よく似た表情の白兔と黒兔が揃って収蔵されている例は他にありません。

青磁雲鳥形水注
アユタヤ王朝(タイ) 15世紀
神様を乗せて飛ぶ聖なる鳥をかたどった水注です。凝った造形と彫り文様が見事な珍しい作品です。

五彩龍文壺 明時代 16世紀
皇帝以外には用いられることを禁じられていた「五つ爪の龍」を描いた豪華な壺です。皇帝専用の案で焼かれた。明時代の典型作です。

青花牛文盤 大越国(ベトナム) 15世紀
ベトナム青花(青い文様を描いた陶磁器)最盛期の作品で、この作品ほど精美あふれる水牛を描いた例は他にありません。



青花蓮東文盤 景德鎮官窯 明時代 15世紀



白釉緑彩花文盤
ベグー王国(ミャンマー) 15-16世紀



三彩瓿 唐時代 8世紀

壺にライオンの足が生えている!?

▶ガラスの作品紹介

キラリとした輝きが魅力のガラス。実は砂などをとくして作られています。ここではボヘミア(チェコ)、中国、日本で作られたガラスの中からイチオシの作品を紹介します。



岩田久利 コンポート 1983年

まるで器の中に宇宙が広がっているみたい!



ゴールド・サンドウィッチ狛狛文蓋付ゴブレット
ボヘミア 18世紀前半



羅摩切子 藍脚御付杯
江戸時代 19世紀後半

丁寧にやすりで削って作られています



白地青被葡萄葉鼠文瓶 清時代 18-20世紀



松浦玉圃 羊歯と雷輪文グラス
明治-大正時代 20世紀前半

明治大正期の日本のエナメル技術の最高峰。制作者の子孫旧蔵の由緒正しい品です。



紫地三彩蝙蝠文壺 清時代 18-19世紀



青野武市 金赤被牡丹文蓋物 2002年

「グラヴィール」という、ガラスを削る技法で文様が施されています

江戸時代に作られた、希少な羅摩切子のうちのひとつです。

